

コアナミズゴケ

Sphagnum microporum
Warnst. ex Card.

ミズゴケ科
Sphagnaceae

カテゴリー

大分県 IA
環境庁 掲載なし

選定理由 日本固有種で、本州から九州に分布する。本県では生育地が少ない。湿地の開発や生育地の乾燥により絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群

分布域 本州, 四国, 九州

生育環境 丘陵地や低山地の湿地で、湿地性草本植物の株元。

現 状 数年前、「玖珠丘陵地・山地」の湿地に生育していたが富栄養化などの環境の変化により消滅した。現在は「九重火山群」にわずかに生育している。

備 考 国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

オオミズゴケ

Sphagnum palustre L.

ミズゴケ科
Sphagnaceae

カテゴリー

大分県 準
環境庁 I

選定理由 北海道から九州に分布する。本県での生育地は他のミズゴケ類に比べてやや多いが、湿原の開発や乾燥、森林の伐採、人による採取などにより生育地の減少が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区、津江山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群

分布域 北海道, 本州, 四国, 九州
世界各地

生育環境 丘陵地から山地の湿地。

現 状 生育地では散在的であり、場所によっては生育範囲が狭くなっている。

備 考 国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]

クマノゴケ

Theriotia lorifolia Card.

キセルゴケ科
Buxbaumiaceae

カテゴリー

大分県 準
環境庁 準

選定理由 本州から九州に分布する。本県では数か所の生育地はあるが、谷部の森林の伐採による乾燥、自然災害など環境の変化により、生育状態の悪化が懸念される。

県内分布 耶馬溪地区、大野川上流域、祖母・傾山地、北川上流域

分布域 本州, 四国, 九州
朝鮮半島, 中国, インド, パキスタン

生育環境 山地の溪流辺で、時に、水しぶきがかかる岩盤。

現 状 生育地では点在している。森林の伐採により周囲の環境が変化して、生育範囲が減少している所がみられる。